【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成18年4月20日(2006.4.20)

【公表番号】特表2005-520883(P2005-520883A)
【公表日】平成17年7月14日(2005.7.14)
【年通号数】公開・登録公報2005-027
【出願番号】特願2003-576519(P2003-576519)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｌ　55/02　(2006.01)
Ｃ０８Ｋ　3/32　(2006.01)
Ｃ０８Ｋ　5/13　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　25/12　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｌ　55/02
Ｃ０８Ｋ　3/32
Ｃ０８Ｋ　5/13
Ｃ０８Ｌ　25/12

【手続補正書】
【提出日】平成18年2月28日(2006.2.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ａ）少なくとも１つの立体障害フェノール基を有する少なくとも１種の酸化防止剤１～９９質量部、および
ｂ）次亜リン酸（H_3PO_2）および亜リン酸（H_3PO_3またはＨＰＯ$_2$）の塩を含有する群から選ばれる少なくとも１種の水溶性無機リン化合物９９～１質量部
を含有する組合せ。
【請求項２】
ポリマーを安定化させるための請求項１に記載の組合せの使用。
【請求項３】
ポリマーを安定化させる方法であって、
ａ）少なくとも１つの立体障害フェノール基を有する少なくとも１種の酸化防止剤１～９９質量部、および
ｂ）次亜リン酸（H_3PO_2）および亜リン酸（H_3PO_3またはＨＰＯ$_2$）の塩を含有する群から選ばれる少なくとも１種の水溶性無機リン化合物９９～１質量部
を含有する組合せ、またはこの組合せの各成分を、一緒または個別に、水溶液若しくは水性分散液若しくは水性エマルションまたはこれら水性形態の組合せの形態で、水性エマルションまたは水性懸濁液中に存在するポリマー物質に添加することを特徴とする方法。
【請求項４】
請求項３に記載の方法により得ることができる、安定化グラフトゴム物質。
【請求項５】
Ａ）０℃未満のガラス転移温度を有し、ラテックス形態で存在する少なくとも１種のゴムの存在下における、少なくとも１種のビニルモノマーのラジカル乳化重合により製造されており、

ａ）少なくとも１つの立体障害フェノール基を有する少なくとも１種の酸化防止剤、および
ｂ）水溶液または分散液の形態の次亜リン酸（H_3PO_2）または亜リン酸（H_3PO_3またはHPO_2）の塩から選ばれる少なくとも１種の水溶性リン化合物
の組合せが処理前に添加された、少なくとも１種のグラフトゴム、および
Ｂ）少なくとも１種の樹脂形成ビニルモノマーの重合により得られた、少なくとも１種の熱可塑性のゴム無含有ポリマー
を含有する熱可塑性成形組成物。
【請求項６】
成分Ａ）を製造するためにスチレンおよびアクリロニトリルを、モノマーとして質量比９０：１０～５０：５０で添加することを特徴とする請求項５に記載の成形組成物。
【請求項７】
成分Ａ）およびＢ）並びに任意にさらなる成分を混合し、高温で配合するおよび押出すことを特徴とする請求項５に記載の成形組成物の製造方法。
【請求項８】
成形品を製造するための、請求項５に記載の成形組成物の使用。
【請求項９】
請求項５に記載の成形組成物から得ることができる成形品。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
前記ポリマーを、原則、既知の方法、例えば乳化、溶液、バルク、懸濁若しくは沈殿重合により、またはそのような方法の組合せにより製造することができる。
そのようなＡＢＳポリマーの加工において望ましくない臭気が、特に高い加工温度でしばしば発生する。これらの固有の臭気は、成形品の特別な用途（例えば自動車内装）における問題を生じ得る。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
これらの問題を解決するために、とりわけ、酸化亜鉛および／または酸化マグネシウムおよびエポキシド基含有化合物の特別な組合せを配合段階で添加することが提案されている（欧州特許第849 317号（EP-B 849 317）参照）。
しかしながら成形組成物の弾性率挙動および放出挙動は、エポキシド基含有化合物の添加により悪影響を受け得る。加えて酸化亜鉛および酸化マグネシウムも、光沢挙動に悪影響を及ぼし得る。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
従って本発明のさらなる目的は、成形品に加工された後に望ましくない臭気を示さない耐衝撃性改良の熱可塑性成形組成物、特にＡＢＳポリマー成形組成物を製造することである。同時に他の特性に、悪影響を及ぼさない。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
本発明の組合せは、ポリマー、特に水性分散液、例えば水性エマルション（乳化重合）または水性懸濁液（懸濁重合）中で製造されるポリマーを、酸化分解または酸素の作用により引き起こされる他の変化に対して安定化させるための薬剤として適当である。
従って本発明は、ポリマーを安定化させるための本発明の組合せの使用も規定する。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
グラフト殻 II）を形成するために適当なビニルモノマーは、水性エマルション中においてゴムラテックスの存在下で重合することができるモノマーである。そのようなモノマーの例は、ビニル芳香族化合物、例えばスチレンまたはα-メチルスチレン、不飽和ニトリル、例えばアクリロニトリルまたはメタクリロニトリル、$C_{1\sim8}$アクリル酸エステルおよび$C_{1\sim8}$メタクリル酸エステル、例えばｎ-ブチルアクリレート、ｔ-ブチルアクリレートまたはメチルメタクリレート、並びにＮ-置換マレイミド、例えばＮ-フェニルマレイミドである。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４３】
狭い粒度分布を有するモノモーダルゴムラテックスは、いわゆるシード重合技術による適当なモノマー、好ましくはブタジエンを含有するモノマー混合物、特に好ましくはブタジエン自体の乳化重合により好ましくは製造され、その方法ではまず微粒状ポリマー、好ましくはゴムポリマー、特に好ましくはブタジエンポリマーが、シードラテックスとして製造され、次いでさらにゴム形成モノマー、好ましくはブタジエン含有モノマーでの転化によりさらに重合され、大きな粒子が形成される（例えば Houben-Weyl, Methoden der Organischen Chemie, Makromolekulare Stoffe, 第1部, 第339頁 (1961年), Thieme Verlag シュトゥットガルト参照）。
これに関してシードバッチ法またはシード供給法が、好ましくは使用される。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４９】
グラフトゴムＡ）の製造におけるグラフト重合は、モノマー混合物を部分的または連続的にゴムラテックスに添加し、次いで重合するように行うことができる。これに関して特定のモノマー-ゴム比が、好ましくは維持される。
グラフトゴムＡ）を製造するためのグラフト重合を、例えば全モノマー添加時間の最初の半分で、グラフト重合に使用される全モノマーの５５～９０質量％、好ましくは６０～８０質量％、特に好ましくは６５～７５質量％を供給し、モノマーの残りの部分を、全モ

ノマー添加時間の次の半分で供給するようなモノマー添加により行うことができる。ゴムラテックスへのモノマーの均一連続供給が好ましい。